

Protozoology Newsletter

April, 2008

CONTENTS

第 41 回日本原生動物学会大会（つくば）のご案内（第 1 報）

第 40 回日本原生動物学会大会報告

写真で振り返る 第40回富山大会

若手の会 コーナー

原生動物学関連の学会開催情報

事務局からのお知らせ

第 41 回 日本原生動物学会大会（つくば）のご案内（第 1 報）

大会長 沼田 治（筑波大学大学院 生命環境科学研究科）

第 41 回日本原生動物学会大会は以下の要領で開催する予定です。関東での開催は、第 36 回東京大会以来です。つくば EXPRESS の開通でつくばと秋葉原の間は 45 分でつながり、とても便利になりました。会員の皆様にはふるってご参加くださいますようお願いいたします。

1. 会期 2008 年 11 月 1 日（土）～ 3 日（祝・月）

1 日（土）： 13:00 ～ 16:00 若手の会

16:00 ～ 18:00 評議員会

16:00 ～ 18:00 若手の会研究相談会（仮）

18:00 ～ 20:00 若手・評議員会合同懇親会

2 日（日）： 9:00 ～ 12:00 一般講演

13:00 ～ 15:00 ポスターセッション

15:00 ～ 16:00 総会

16:00 ～ 17:00 学会賞・奨励賞授賞式および学会賞受賞者講演（予定）

17:00 ～ 18:00 特別講演

18:15 ～ 20:30 懇親会（筑波大学第 2 学群食堂）

3 日（月）： 9:00 ～ 12:00 一般講演

13:00 ～ 15:00 公開講演会（詳細は第 2 報にてご案内します）

2. 会場 筑波大学 中地区 総合研究棟 A 棟

一般講演: 公開講義室（A110） ポスターセッション: プレゼンルーム（A107）

3. 発表 液晶プロジェクターを使用した口頭発表とポスター発表

特別講演: Dr. Jacek Gaertig（University of Georgia） 演題: “Deciphering the tubulin code in *Tetrahymena*”

4. 申込み 参加と発表の申込み締め切りは、2008 年 9 月 30 日（火）です。

申込み方法等の詳細は、大会ホームページ及びニュースレター第 2 報でお知らせします。

- 5. 参加費** 大会参加費、懇親会費、学会費につきましては、大会当日、受付（総合研究棟 A 棟 1 階）にて支払いをお願いいたします。
大会参加費: 一般会員 3,000 円 学生会員 1,000 円, **懇親会費:** 一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円
- 6. 宿泊** 主催事務局では、以下のホテルを予約しております。
申し込み時に、本学会の参加である旨を必ずお伝えください。
- ＜申し込み先＞
 オークラ フロンティアホテル つくばエポカル（<http://www.okura-tsukuba.co.jp>）
 TEL: 029-861-1166, FAX: 029-852-5623, E-mail: yoyaku@okura-tsukuba.co.jp
 シングルルーム（禁煙 or 喫煙）料金: 10,500円（1 泊朝食、消費税・サービス料込み）
 ※ 本予約への申し込みは、2008年9月30日（火）まで、または、予約数がなくなった時点で終了となります。なお、キャンセル等の手続きにつきましては、申込者・ホテル間で対応いただくこととなります。
- 7. 大会事務局** 〒 305-8572 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学 生命環境科学研究科
 第 41 回日本原生動物学会 大会事務局 沼田 治
 TEL: 029-853-6648 / FAX: 029-853-6614 E-mail: numata@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
 準備委員会委員：沼田 治、中野 賢太郎、杉田 真希

第40回日本原生動物学会大会 大会報告記事

富山大学 理工学研究部（理学） 野口 宗憲

2007年（平成19年）11月16日（金）～18日（日）の日程で、第40回日本原生動物学会大会を富山市の富山大学（五福キャンパス）黒田講堂会議室と理学部多目的ホールで開催しました。約100名のご参加をいただき盛況のうちに大会を終えることができました。会員の皆様のご協力に大会準備委員会を代表して深く感謝いたします。

前学会長の高橋三保子先生から2007年の大会を富山で引きうけてくれないかという突然のお電話をいただいたのが2005年の11月でした。そのときは、富山県内に原生動物学会の会員は私一人だけだと思っておりまして、私と数名の学生だけで開催できるかどうか一晩考えさせていただきました。高橋三保子先生も手伝ってくださるとのことでしたので、まあ、何とかなるだろうと、次の日にお引き受けするとのお返事をいたしました。実際、高橋先生には、招待講演のJudith Van Houten先生の講演の交渉から日本滞在中のお世話まですべてをお任せしてしまいました。おかげで、私どもは大会開催の作業に専念することができました。

実際の準備は、2006年8月に日程と会場を決めることから始まりました。例年11月に開催されているようなので、会場費を安く上げるため富山大学内で会場の都合のつく16～18日とし黒田講堂の会議室を予約しました。当初、会場はここだけですませるつもりでしたが、参加者が多い場合には狭いと思われたため、口演会場としては理学部に新築された多目的ホールを使用することにしました。ポスター会場と講演会場が離れた場所になったため会場を移動していただくことになりご不便をおかけしました。

次の段階は、前年の大会（佐賀大会）に参加して、会員の

皆様にご案内をすることと、佐賀大会の事務局に原生動物学会大会運営のノウハウを教えていただくことでした。大会長の高橋忠夫先生と久富先生には、大会中のお忙しい中ご教示いただいたうえ、後日、大会開催の資料や物品をお送りいただきました。これらはとても役に立ちました、この場を借りて御礼申し上げます。また幸運にも、佐賀大会で特別講演のお世話をなさっていた宮城教育大学の島野先生に初めてお目にかかり、先生が富山のご出身だとうかがいました。厚かましくもその場で富山大会も手伝ってくださるようお願いしたところ快く引きうけてくださいました。佐賀から帰って、早速富山大会の案内のウェブページをアップし、メーリングリストPROTOにお知らせを投稿したところ、二つめの幸運が訪れました。富山在住の会員は私一人だと思っていましたが、富山大学工学部の安川先生が、私も会員なのでお手伝いしましょうと言ってくださったのです。これで、3人で準備と運営をする体制ができました。

準備態勢も整い、2007年夏に本格的な準備を始めました。県と市のコンベンション補助事業になにがしかの補助を得るために申請をしたり、会場借用やポスター用パネル借用の手続きをするうちに、参加申込や講演申込受付の時期になりました。送っていただいたプログラム用の原稿を編集しようとして困ったことに気付きました。今回の「プログラム用要旨作成要領」に発表者の所属を略記していただくように指示していなかったため、所属がやたらと長く、肝心の講演要旨よりもスペースをとる事態となりました。その時点で著者をお願いして縮めてもらう時間的な余裕がありませんでしたので、今回はフォントを小さくするなどしてページをセット

することにしました。以前の大会案内を見返してみると、所属を略記し枠内に収まるようにとの指示がありフォーマットが添付されていた時期もありましたので、そのような工夫をするべきだったと反省しております。それにしても、最近の大学院や改組された学部学科の名称はやたらと長く（富山大学の場合もそうなのですが）、それでいて教育研究内容が分からないというのは困ったものですね。

プログラムの製本も終わり15日（木）には、スタッフ全員が集合し、名札・領収証の点検や役割分担等最終的な打合せをおこないました。準備委員3名の他に、安川研の学生9名と野口研の学生3名が受付や会場係などを担当してくれました。16日は朝からポスター会場の設営と講演会場の設営や会場案内の掲示に走り回っているうちに、受付開始時間の12時になってしまいました。午後は若手の会と評議員会がそれぞれの会場で始まり、参加者のご協力もあって17、18日の一般講演へとスムーズに進行していきました。

16日には雨も上がり17日は富山ではまれな晴天で雪をいただく立山連峰を臨むことができましたが、懇親会が終了する頃から荒れ模様となりちょっと残念でした。しかしこれが北陸の晩秋の典型的な空模様です。参加していただいた皆様

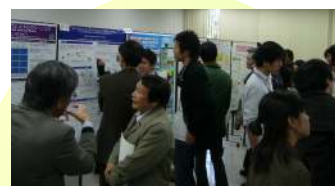
には、3日間でお天気も含め富山のいろいろな面を体験していただいたのではないのでしょうか。

富山大会では、口頭発表22演題、ポスター発表20演題の発表がおこなわれ活発な討論がおこなわれました。この学会の特徴でもあります。参加者の半数以上が学生会員でエネルギーを感じました。最終日の午後のポスターセッションは終了時間になっても議論が続いており、会場片付けの都合で討論を終えていただいたこと申し訳なく思います。本大会では、学会誌編集長の今村先生のご提案で近隣の高等学校の先生方へ無料聴講の案内をしたところ4名の先生方が参加されました。最近の原生動物研究の一端に触れていただいたことと思います。

こちらの不手際で、ご不満な点多々あったと思います。が無事に大会を終えることができましたのはご参加いただいた皆様のおかげです。コンベンション補助事業のための宿泊先への参加証提出等、こちらの勝手なお願いにもご協力いただき有難うございました。おかげで赤字を出さずにすみしました。重ねて御礼申し上げます。

来年は、筑波でお目にかかりましょう。

一般講演



ポスターセッション



特別講演



奨励賞授賞式

写真で振り返る



第四十回富山大会



懇親会

若手の会 会長就任のご挨拶



筑波大学大学院 生命環境科学研究科 杉田 真希

みなさんこんにちは。若手の会の会長を務めさせていただく筑波大学の杉田真希です。「若手の会」といっても入会手続きや年齢制限は特にありません。我こそは原生生物若手研究者なり！という人が自由に参加できる会です。私はこの垣根のない自由な会の雰囲気を持続するとともに、さらに若手同士で熱く討論できるような場を作っていきたいと考えています。若手の会では、2005年の帯広大会から日本原生動物学会の会期に合わせてワークショップを開催しています。発表時間を長めにとっているのも、丁寧な説明が可能で、演者と聴衆の双方が学びやすい発表会だと思います。演者は、通常の学会発表とは一味違う発表形式を経験することができます。これは、特に学年の若い人には良い勉強の機会になると思います。実際私も、修士1年のときに当時若手の会会長だった西原さんに誘っていただいて発表し、とても良い経験になりました。前回の富山大会では、原生動物という枠を思い切って超えて、藻類の研究者にも発表していただきました。これからも、異分野の研究者にも積極的に声を掛けることで、様々な研究に触れお互いを刺激し合えば良いなと考えています。よろしくお願い致します。

若手の会 役員就任のご挨拶

兵庫県立大学大学院 生命理科学研究科 西上 幸範

「なんじゃこりゃ！」 はじめてアメーバを見た私の感想です。そして、なんとなく動いていて可愛いからという理由でアメーバの研究をはじめました。その後、彼らのことが少しずつわかり始めました。小学校の教科書にも出てくる彼らですが、ヒトは彼らについて多くを知らないこと。実は最も下等な原生動物ではないこと。喜んだり、嫌がったりすること…などなど。そして気づきました。アメーバの魅力。それは、あの変な形。変でしょ…あの形は…。おかしいでしょ…。あんな混沌としたつかみようのない変な塊なのに、彼らは生きています。ご飯も食べるし、ウンコもするし、まぶしいと逃げるし、気分がイイ時には探検もします。しかも、それら全てはヒトが言うところの仮足で行われます。仮足っていったい…。手？口？肛門？目？足？「なんじゃこりゃ！」 アメーバは変です。だから楽しい。多くの原生動物も変です。だから楽しい。若手の会の活動を通して、多くのヒトが自分のミクロ生物や実験をさらに楽しめるように努力します。よろしくお願い致します。



岩国市立ミクロ生物館 末友 靖隆

昨年度に引き続き、今年度も若手の会のお手伝いをさせていただくことになりました。歴代若手役員の皆様の努力と熱意、そしてそれを支える日本原生動物学会の皆様の温かいご支援・ご協力により、若手の会は発展を続けてきました。この流れを更に加速すべく、これからも杉田会長、西上さんと一致団結し、若手の会の更なる発展に努めてまいります。学会に入りたての人でも、抵抗感無く原生生物の魅力について楽しく、そして熱く討論できる、そんな場を若手の会で提供していければと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



杉田真希 新会長
就任のご挨拶



学会奨励賞受賞
西原絵里 元会長



フォトコンテスト
最優秀賞受賞
中山卓郎 さん



フォトコンテスト
アイデア賞受賞
長谷川寛 さん

若手の会 前会長からのメッセージ

若手の会発 ベンチャー起業も近い！？

立命館大学大学院 理工学研究科 加藤 豊

私は1年間だけの会長就任となりましたが、若手の会として2つの大きな改革ができたと思っています。1つは、若手の会ホームページやメーリングリスト作成などのオンライン化です。若手の会のメンバーはみな学生で、普段は研究に専念している身です。オンライン化によりメンバーの負担が減ると同時に、多くの人々に迅速に情報を伝えることができるようになりました。特にメーリングリストは誰でも情報が発信でき、現在では就職情報なども流していただいています。2つ目としましては、藻類研究者の講演会実現です。講演会を通じて他分野の研究者との交流を提供できたこと、また、学会活性化に向けて、原生動物だけでなく藻類も含めた『原生生物』としてのフィールドの拡大を若手の会から提案できたことは大きな成果と受け止めています。このように、本会とは違って若手の会は自由度が高く、やる気になればおもしろい試みができることを今後の若手の会に伝えられたと思っています。今後、若手の会でベンチャー起業できないかと密に考えています（笑）。最後になりましたが、このようにアグレッシブに活動できたのも、多くの先生方からの御意見、御指導のおかげです。この場をお借りして感謝の意を表します。ありがとうございました。

若手の会 前役員からのメッセージ

若手の会を振り返って

山口大学大学院 理工学研究科 児玉 有紀

昨年度の若手の会の副会長を務めさせていただきました、山口大学藤島研究室の児玉有紀です。昨年度の若手の会では加藤前会長を中心に、若手の会独自のホームページとメーリングリストを作成しました。いずれも初めての試みでしたので様々な問題が生じましたが、その度に若手の会の役員4名が意見を出し合い解決していきました。一昨年の佐賀大会で任務を引き受けてから昨年の富山大会が終了するまでの一年間は常に若手の会の仕事があり、運営の難しさを感じました。富山大会では野口先生をはじめスタッフの皆様の御協力もあり、若手の会ワークショップを無事に終えることが出来ました。ワークショップには多数の先生方や、学生さんに御参加いただきありがとうございました。各講演の後には活発な質疑応答があり、大変充実していたと思います。これからの若手の会でも活発なワークショップを続けて欲しいと思います。

最後になりましたが、若手の会の活動に御理解、御協力してくださった皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。1年間若手の会の役員として共に活動した立命館大学の加藤さん、ミクロ生物館の末友さん、筑波大学の杉田さん、本当にありがとうございました。さらなる若手の会の発展を期待しております。

フォトコンテスト受賞作品のご紹介

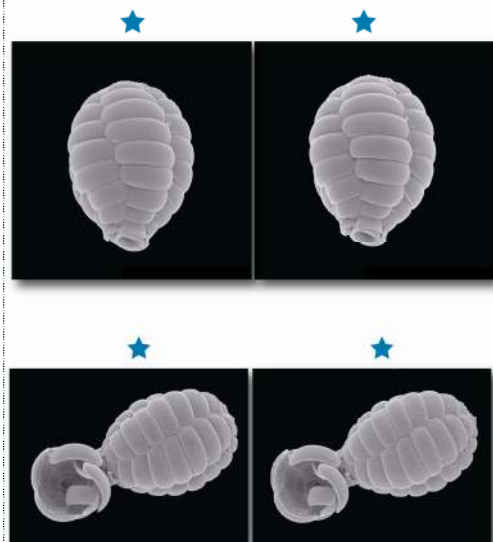
最優秀賞 受賞作品

“*Paulinella chromatophora* の立体視 ”

筑波大学大学院 生命環境科学研究科 中山 卓郎

Paulinella chromatophora の立体視

Paulinella chromatophora の殻のSEM写真です。平行法で2つの★が重なるように像をずらして見てください。2つの像が重なると殻が浮き出て見えます。



↑ 新しい殻を作成中 ↑

Paulinella chromatophora は、*Euglypha* に近縁な有殻アメーバです。今回は、その殻のSEM写真を展覧させていただきました。殻を構成する鱗片の配置の緻密さ、ダイナミックさを表現するために立体視ができるように工夫してみましたので、ぜひ挑戦してみてください！

アイディア賞 受賞作品

“mail「キター!!!」”

金沢大学大学院 自然科学研究科 長谷川 寛

キター(°▽°)ー!!!!

有名なこの顔文字をゲル写真で作ってみました。



実験で写真を撮っている時に思いついた作品です。

キター(°▽°)ー!!!!
~(O)U

これ位は作りたかったのですが、未熟なのでこれから頑張っていきたいと思います。



若手懇親会のようす



原生動物学関連の学会開催情報

International Society of Protistologists (ISOP), 59th Annual Meeting と International Society for Evolutionary Protistology, 17th Meeting (ISEP)の合同年次大会 (PROTIST2008)

会期: 2008年7月21日～26日, 場所: カナダ・ノバスコシア州ハリファックス市 Dalhousie University,

ホームページ: <https://protist2008.dal.ca/>, 問い合わせ先: Prof. Dr. Sina Adl (Dalhousie University)

第13回国際原生動物学会議 (International Congress of Protozoology, ICOP XII)

会期: 2009年8月24日～27日, 場所: ブラジル・リオデジャネイロ市 Hotel Gloria, 問い合わせ先: Prof. Dr. Wanderley de Souza,

電子メール: wsouza@biof.ufrj.br

事務局からのお知らせ

学会賞・奨励賞の推薦のお願い

会員の皆様からの学会賞、奨励賞候補者の推薦をお願い致します

推薦等の締め切り: 6月末日

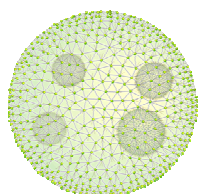
奨励賞候補者の応募資格: 6月末日で満35歳以下 (自薦可)

提出書類・提出先: 学会賞候補者は必要書類 (履歴書・研究業績リスト・会員歴・主要論文別刷5編) 各3部を推薦者を経て会長に提出して下さい。奨励賞候補者は、必要書類 (履歴書・本学会での発表リスト・会員歴・論文別刷等参考になるもの) 各3部を推薦者を経て会長に提出して下さい。推薦者は上記書類に加えて推薦理由書をつけて下さい

日本原生動物学会ベストプレゼンテーション賞について

平成20年より、日本原生動物学会ベストプレゼンテーション賞が新設されます。詳細は以下の通りとなっております

- 1) 名称: 日本原生動物学会ベストプレゼンテーション賞 (略称: BPA: Best Presentation Award of the Japan Society of Protozoology)
- 2) 趣旨: 原生動物学の若手研究者の研究奨励、及び、就職のサポート。本学会が厳格な評価の仕組みによって履歴書に記載できるBPAを与える
- 3) 件数: 2件
- 4) 受賞対象者: 発表論文第一著者の発表者 候補資格: 6月末日で35歳以下の本学会会員
- 5) 評価者: 対象発表の全演題を聴講する評議員。学会賞等選考委員会委員長がBPA選考委員長をつとめる
- 6) 評価方法: 審査員は対象発表者からベスト2人を選び、発表一覧表に○を2つだけ付け (3つ以上は無効)、それを集計して得票数の多い者2人を決める。同点が出た場合は、審査員の意見を総合してBPA選考委員会が判断する
- 7) 結果の公表: すべての発表が終了後、大会会場で公表する



編集・刊行 日本原生動物学会 編集局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学理工学部内 (編集委員長: 今村 信孝)
Tel / Fax: 077-566-1111 E-mail: imamura@se.ritsumei.ac.jp

ニュースレター編集担当 末友 靖隆
E-mail: suetomo@shiokaze-kouen.net
ニュースレターに関するご意見、ご感想等お待ちしております

